主な記事
ハラスメント防ぐ対策を　2
2023年を振り返る　3
千住に地口あんどん　4

Shoten-gai NEWS
商店街ニュースN
第1191号
（令和５年）2023年12月5日
（毎月５日発行）

発行所　東京都商店街振興組合連合会
〒104-0061　東京都中央区銀座2-10-18
電　話　03－3542－0231～5
FAX　03－3542－0236
URL　http://www.toshinren.or.jp/
購読料　年間2,500円［送料込み、会費に含む］

第18回 商店街グランプリ

大賞は水門通り（大田）

若手イベント際立つ
個人賞はキラー通りの原田氏

水門通り商店街の小林秀行理事長（中央）と青年部メンバーら

東京都主催の第18回「東京商店街グランプリ」が11月14日に秋葉原で開かれ、グランプリに水門通り商店街振興組合（大田区）のイベントマルシェG－round「地域で描く円と縁」が選ばれるなど、計6件・1個人が受賞した（表参照）。

商店街が行った優れた取り組みを都が表彰するもので、2005年度から実施している事業。今回は応募のあった21件の中から審査をへて発表された。

水門通り商店街の取り組みは、出店料等の収入で事業費を捻出するなど助成金に頼らない形をつくった点、公式LINEアカウントやインスタグラムを活用し出店者とのコミュニケーションや集客につなげた点が評価された。何より若手メンバーが中心となって事業運営した点でも成果は際立っていたという。

まえさわ小町の場合は、店主らをキャラクター化しカードを作りカードラリーも行うなど、商店会の認知度と親しみやすさが向上したことが評価された。

優秀賞は3件。一つは、徳川綱吉の御殿跡がある地域の歴史を生かし鷹狩りショーを展開、ユーチューブで配信するなどデジタル化もしたニュー北町商店街（練馬区）の「下練馬宿まつり」。

万人に好まれるフライドポテトを食べ比べようと、さまざまなディップソースを会員店舗が開発し競った東大泉商栄会（練馬区）の「でぃっぷぃーぐらんぷり」と、地域名の南街（なんがい）にちなみ「にゃんがいい」とネコをテーマに美大生と連携しペイントやオブジェを街じゅうで発表した富士見通り商栄会（東大和市）のアートプロジェクトも入賞した。

原田会長

また六町駅前商店会resk（足立区）の「つながるプロジェクト」が、フェスタやキッチンカーの移動販売などいくつもの小さなイベントを10年にわたり継続的に実施し、商店街のにぎわいを維持してきたことを評価され特別賞に入った。

商店街振興への貢献が顕著な人を表彰する「個人の部」では、青山キラー通り商店会（渋谷区）の原田浩太郎（ひろたろう）会長が受賞。町会と連携し地域活動をけん引したこと、殺人的な交通量の多さや青山霊園の近さを由来とする「キラー通り」の名称をPRしてきたことなどが注目された。

表彰式ではトロフィーと賞状がそれぞれに贈られ、坂本雅彦・都産業労働局長は祝辞で「どれも商店街全体の発展につながる事例と思う。コロナの逆風を押し返す取り組みだ」などとたたえた。

《受賞した商店街と事業名》

グランプリ	イベントマルシェ G-round「地域で描く円と縁」
	水門通り商店街振興組合〈大田区〉
準グランプリ	キャラクター商店街事業
	まえさわ小町商店会〈東久留米市〉
優秀賞	下練馬宿まつり 徳川御殿・鷹狩りショー
	ニュー北町商店街振興組合〈練馬区〉
	第１回ゆめーてる商店街 でぃっぷ１ぐらんぷり
	東大泉商栄会〈練馬区〉
	富士見通り「にゃんがいい」アートプロジェクト２０２２
	富士見通り商栄会〈東大和市〉
特別賞	六町つながるプロジェクト２０２２
	六町駅前商店会 resk〈足立区〉
個人賞	原田　浩太郎氏
	青山キラー通り商店会長〈渋谷区〉

都有識者会議

女性活躍 課題に
DX支援策も検討へ

「東京の中小企業振興を考える有識者会議」（座長＝鵜飼信一・早稲田大学名誉教授）の2023年度第2回会合が11月7日、江東区の清澄庭園大正記念館で行われた。DX（デジタルトランスフォーメーション）、女性活躍など東京都の今後の施策展開や予算を、都内中小企業の現状を踏まえたものにしようと検討する場。

出席した小池百合子知事は、海外情勢やエネルギー価格の高騰、円安などに触れ、「中小企業にとっては非常に先を読みにくいが、だからチャンスがあるとも言える。事業の成長や新たなビジネスに挑戦する企業を後押ししたい」と話した。

有識者会議に対しては「東京の経済を支える中小企業の優れたノウハウと財産をしっかり守り次の時代に引き継ぐ事業承継など、将来を見据えた取り組みを支援していきたい」と議論に期待した。

都は2024年度の施策展開について、経営基盤を強化し、新たな取り組みにチャレンジできる環境を生み出し、社会ニーズに対応していく像を描く。

とくに事業承継の促進、中小企業が価格交渉できるようにするための支援、女性活躍、人手不足業界における人材確保などが課題だとしている。

DX導入に向けたコーディネートや資金・ノウハウ両面からの支援も、社会・経済の新たな動きとして施策にて、若手や女性の開業を支援すること、女性の商店街活動への参画を促進することや、インバウンド対応に取り組む商店街を積極的に後押しする施策などを検討している。

巣鴨で酉の市
商店街を表参道に
振興組合化も目指す

取り入れる方向だ。

商店街をめぐっては後継者不足と役員の担い手不足がたびたび議題に上がっており、新たな担い手の育成として組む商店街を積極的に後押しする施策などを検討している。

福をかき集めるという縁起物の熊手が販売される「酉の市」が11月11日、文京区の巣鴨大鳥神社で開かれた（写真）。

同神社の酉の市は歴史も古く、幕末の元治元（1864）年に始まったとされる。境内はお参りする人と大小さまざまな熊手を買い求める人でごった返し、購入が決まるたび「家内安全、商売繁盛、繁盛、繁盛！」という威勢のいい声と手締めが響いた。

同神社が会員になっている「巣鴨大鳥神社商店街」（豊島区）は、4月に巣一商店会（同区）と隣接する大鳥商店会（文京区）が合併したことにより誕生。商店街を巣鴨駅から神社までの表参道としてアピールしている。

合併して会長に就任した中村安次さんは、「酉の市のような伝統行事を文化として地域の子供たちに伝えることも商店街の役割だと思う」と語り、「これからも巣鴨大鳥神社と共に街を活性化したい」と目標を掲げる。そのためにも法人化によるメリットを受けられる振興組合設立を目指している。

賀詞交歓会
1月9日（火）

東京都商店街振興組合連合会と東京都商店街連合会は、合同新年賀詞交歓会を2024年1月9日（火）午前11時から、新宿区西新宿の京王プラザホテルで開きます。会費は、1人1万円です。ぜひ、ご参加ください。

TOSHINREN-information

魅力ある街づくりのためには
“振興組合化”から！

■振興組合設立のためには？
振興組合を設立するためには、発起人が７人以上おり、次の３つの要件を満たすことが必要です
①小売商業、サービス業を営む者が30人以上近接して商店街を形成していること
②他の商店街振興組合の地区と重複しないこと
③その地区内の組合員有資格者の２／３以上が組合員となり、かつ、総組合員の１／２以上が小売商業またはサービス業であること

■振興組合設立のメリットは？
①人的なまとまりが強くなり組織力が強化されます
②組合運営および会計が明確化され新規加入促進につながります
③法律に基づく法人であるため、社会的な信用が高まります
④国や都、区市など行政の助成金や施策が活用できます

詳しくは 東京都商店街振興組合連合会 組織課へお問い合わせください　TEL：03（3542）0231